

(社)地盤工学会 室内試験規格・基準委員会
「平成 21 年度 第 1 回 幹事会 議事録」

日時	平成 21 年 4 月 2 日(木) 9:15 ~ 17:15		場所	地盤工学会 3 階 会長室	
委員長	後藤 聡		幹事	豊田 浩史	
幹事	川崎 了				

:出席 :電子会議出席 :代理出席 ×:欠席
議事録担当:川崎 了

配布資料:

資料番号なし:室内試験規格・基準委員会平成 21 年度第 1 回幹事会議題書

資料 21-1-1:赤本改訂版の価格案

資料 21-1-2:赤本改訂版の印刷工程表

資料 21-1-3:WG12 のメンバー構成(案)

資料 21-1-4:平成 20 年度室内試験規格・基準委員会の予算収支決算書

資料 21-1-5:平成 21 年度室内試験規格・基準委員会の予算計画書

資料 21-1-6:WG9 平成 20 年度第 2 回会議議事録

議 題:

1)日本工業標準調査会土木技術専門委員会の対応について

地盤工学会から提出した JIS 規格案の 17 件が 4/8(水)に日本工業標準調査会(JISC)土木技術専門委員会で審議されることに伴い、これまでの対応状況について情報交換を行った。

- ・当日は、後藤委員長、川崎幹事、渡部氏、山本氏、横田氏および伊佐治氏の計 6 名が、オブザーバーとして参加する。事前配布資料について、よく検討しておく。
- ・当日は、赤本を持って行く。(対応:伊佐治氏)
- ・透水試験については、3 月下旬の日本規格協会(JSA)と地盤工学会とのやりとりの中で通水回数を 3 回以上とする部分を削除したが、この規格改正を担当する WG3 と電話で直接相談した結果、表現を元に戻すことになった(現状の赤本のままで変更なし)。これに伴い、速やかに修正版の JIS 規格案を関野氏まで送付することになった。(対応:伊佐治氏)
- ・各 WG まで JIS 規格案の最終版を送付し、JISC で修正対応が可能な 4/8(水)までに最終確認をしてもらう。(対応:伊佐治氏)
- ・専門委員会の委員である巻内先生と利藤氏に、事前に説明しておく。(対応:後藤委員長)
- ・JIS 規格案に関する専門委員会後の工程は、JISC から国土交通省に戻り、パブリックコメントの 60 日間の後に官報公示となる予定である。

2)JIS 規格と JGS 基準の整合性について

日本規格協会(JSA)と地盤工学会とのやりとりの中で、例えば「注記」部分の記述内容を JIS 規格の本文中に入れるなどの修正を行った。これに伴い、JIS 規格と JGS 基準との間に内容の違いが一部生じたため、両者の整合性について議論した。その結果、すべての JGS 基準を JIS 規格に合わせ、修正することになった。この JGS 基準の修正は、4 月末までに完了させることとし、各 WG への依頼は電子メールで依頼する。(対応:川崎幹事)

3) 赤本改訂版の価格について

赤本改訂版の価格案について基準部から理事会に上申した結果、総務部預かりとなったことが報告された。このため、今年度4月の早い時期に委員会を開催し、これまでの経緯について説明を行うと同時に、委員会の関係者および各WGの関係者から価格に関する意見をもらうことにした。なお、説明時には基準部会から理事会に上申した際の資料を使用する。(対応:後藤委員長)

4) 赤本改訂版の原稿執筆状況および入稿計画について

原稿の執筆状況について確認した結果、懸念される部分は第1編および第9編であること、その他の編についてはほぼ完成していること、などを確認した。そのため、以下のような対応を行うことになった。

- ・第1編の第2章および第6章については、今月中に完成させる。(対応:後藤委員長)
- ・第9編の第1章および第2章の執筆担当者に対し、4/17(金)までに原稿を提出してもらうように督促の連絡を入れる。(対応:後藤委員長)
- ・原稿の入稿は、できたところから4月上旬～5月中旬の期間内に実施する。
- ・初稿の校正は、各編でバラバラに各WG単位で実施する。
- ・再稿の校正は、各編(各WG)間の調整を委員会全体で実施する。同時に、索引用語をマーキングする作業を行う。
- ・第2回委員会は、7/21(火)～7/31(金)に開催する方向で日程調整する。(対応:川崎幹事)

5) 赤本改訂版の付録について

議論した結果、以下のように対応することになった。

- ・「旧データシートと改訂データシートとの対応表」については、必要なところ(圧密試験など)だけ掲載する。
- ・「薬液注入工法に関する暫定指針」については、WG5に対応を依頼する。(対応:川崎幹事)
- ・上記以外については、原稿の赤本と同じ仕様とする。なお、詳細については地盤工学会事務局と相談しながら進める。

6) 赤本改訂版の原稿校正について

初稿など校正原稿をPDF形式の電子ファイルにしてから各WGまで配布したいと考え、地盤工学会事務局に相談したところ、通常は出版社から校正原稿を紙面にて各担当者まで直接送付しているとの回答が得られた。よって、4月に開催予定の委員会において、関係者から意見を伺うことにした。また、校正料の支払いの有無とその方法について意見を聞くことになった。

7) 赤本改訂版の出版までのスケジュール確認について

今年度の赤本改訂版を出版するまでの作業工程について確認を行った。その主な内容は、以下のとおりである。

- ・4月上旬～5月中旬:入稿(各WGで順次対応)
- ・5月中旬～7月上旬:初稿(各WGで順次対応)

- ・6月下旬～8月中旬:再稿(委員会で対応)
- ・9月上旬～9月中旬:参稿(対応者は未定)
- ・10月上旬:印刷
- ・10月中旬:製本
- ・10月下旬:納品
- ・11月上旬～11月下旬:赤本改訂版の講習会(本部主催)
- ・12月上旬以降:赤本改訂版の講習会(北海道支部主催ほか)

8)WG9～WG12の活動状況について

平成20年度のWG9～WG11の活動状況および新規WG12の準備状況について確認を実施した。その主な内容は、以下に記載するとおりである。

- ・WG9:平成20年度第2回WG会議の議事録について報告があった。平成21年度は、地盤工学会のメーリングリストなどを利用したBE試験に関するアンケート調査およびBE試験の一斉試験を予定している。また、BE試験方法の基準化に関する答申案は、平成21年秋を目途に提出してもらう。(対応:豊田幹事)
- ・WG10:発刊時期(平成21年12月を目標)、原稿料(支給しない方針の確認)、解答冊子(配布方法の確認)について、問い合わせることになった。(対応:後藤委員長)
- ・WG11:第1編の原稿未完成部分は第2章および第6章のみであり、執筆担当者に問い合わせることになった。(対応:後藤委員長)
- ・WG12:WGメンバー構成案について審議した結果、平成21年4月17日開催の基準部会上申する方向で当委員会の審議を行うことにした。なお、WGメンバー構成案の役職名を修正する。(対応:川崎幹事)

9)平成20年度の委員会予算の収支決算について

平成20年度の一般会計および刊行事業特別会計の予算執行状況について報告があった。その結果、両会計の全体収支に関しては、それぞれ当初予算の範囲内において予算の執行が行われことを確認した。

10)今年度の委員会・WGの予算配分および活動計画について

昨年度の委員会および各WGの活動状況を踏まえ、平成21年度の一般会計および刊行事業特別会計の予算配分について議論した。その結果、幹事会案を次回の委員会において審議してもらうことになった。

11)その他

- ・赤本改訂版の原稿の校正料については、参校のみを対象とすることを幹事会案とする。なお、本件については、4月開催予定の委員会で審議する。
- ・赤本改訂版の発刊後に実施する講習会については、その原案を当員会で作成する必要がある。なお、講習会は最初に本部主催で地盤工学会において開催し、その後は引き続き北海道支部を始めとする講習会を希望する各支部において各支部主催で開催する。
- ・次回の平成21年度第1回委員会は、4月中に開催する方向で日程調整を行う。可能であれば、

4/17(金)の基準部会前に開催できれば好都合である。(対応:川崎幹事)

以上